**校　長　日笠　賢**

**令和３年度　学校経営計画及び学校評価**

１　めざす学校像

|  |
| --- |
| **めざす学校**  生徒ひとりひとりが、本校で充実した学校生活を過ごす中で、明るい将来の展望を持ち、自らの個性と、将来果たすべき社会的な役割を意識して、  １．かけがえのない存在として自らの能力を信じ、伸びしろに期待した高い目標に挑戦し、失敗に学び、達成して成長の喜びを実感する学校  ２．志や使命感を持ち、他者への感謝と思いやりを忘れず、礼儀を弁えて、自らの品性と教養を磨く学校  ３．何事も、自ら考え、自ら判断して行動し、結果に対しては自ら責任を取るとともに、失敗にくじけず、何度でも自らの力で立ち上がる精神を育む学校  **牧野高校の教育方針**  本校の教育指針である「自尊」、「自浄」、「自助」の精神を身に付け、多様化・国際化する社会で個性を活かし、自らの使命を果たせる人材を育成する。 |

２　中期的目標

|  |
| --- |
| １．新型コロナウイルス併存下での「確かな学力」の育成と授業改善　（ 「　」 内は学校教育自己診断におけるアンケート設問事項。以下全て同様。）  （１）新型コロナウイルス併存下で、新学習指導要領の実施や、高大接続システム改革等を見据えて、「確かな学力」の育成とそのための授業改善を進める。  ア　校内の『授業力改善委員会』による持続的な授業改善を推進する。  　　※ 「牧野高校の授業はわかりやすい」の生徒の肯定回答を令和５年度までに80％以上にする（Ｈ29 69％、Ｈ30 76％、Ｒ１ 77％、Ｒ２ 78％）。  イ　『主体的・対話的で深い学び』実現をめざし、ＩＣＴ機器やネットワーク環境を一層充実させ、ＩＣＴを活用した授業等の実施機会を拡大・推進する。  ※ 令和５年度までに95％以上の教員が定常的にＩＣＴを活用した授業を実施できるようにする（Ｈ29 59％、Ｈ30 80％、Ｒ１ 81％、Ｒ２ 93％）。  ※ 令和５年度までに95％以上の生徒がＩＣＴを活用した授業が多いことを実感するようにする（Ｈ29 54％、Ｈ30 81％、Ｒ１ 83％、Ｒ２ 91％）。  ウ　入学時の学力を卒業まで維持、発展・向上すべく、生徒に、授業の予習、復習を行うよう習慣づけを指導する。  　　※ 「授業の予習、復習は『できている』、『まずできている』」を令和5年度に55％以上にする（H29年度45％、H30年度47％、R1年度49％、R2年度53％）。  ※ 「授業の予習、復習は『できていない』」を令和５年度に５％以下にする（Ｈ29 12％、Ｈ30 10％、Ｒ１ ９％、Ｒ２ ８％）。  　　　エ　新学習指導要領を踏まえ、生徒の進路希望が叶う新たなカリキュラムを準備し、令和４年度から学年進行で実施できるようにする。  ２．新型コロナウイルス併存下でのＩＣＴを活用した授業やオンライン授業、オンデマンド授業の充実、ＧＩＧＡスクール構想への対応  （１）ＩＣＴ機能を活用して、学校休業時や、新型コロナウイルス感染者と濃厚接触者等への学習補完を図るとともに、ＧＩＧＡスクール構想への対応を推進する。  ア　校内に設置した「ＩＣＴ、ＧＩＧＡスクール対応推進委員会」を中心に学校休業時や、新型コロナウイルス感染者と濃厚接触者等の学習補完を充実する。  　　　イ　ＧＩＧＡスクール構想における1人1台端末の導入に対応し、校内のハード（電子黒板との連携）、ソフト（教員研修）両面でのＩＣＴ活用推進を図る。  ３．コロナ併存社会、コロナ後の社会を生き抜く、生徒の豊かでたくましい人間性を育成するための教育機会の拡充と希望の進路の実現  （１）コロナ偏見を許さず、人種や国、性の違い、障がいの有無等に拘りなく多様性を認め合い共生するための、生徒、教職員等の人権意識を醸成する。  ア　コロナ偏見を許さないとともに、生徒、教職員、保護者に対して、多様性を認め合い共生するための、人権教育、人権意識醸成の機会を作っていく。  ※ 「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の生徒の肯定的回答を令和５年度に90％以上にする（Ｈ30 82％、Ｒ１ 84％、Ｒ２ 87％）。  ※ 「牧野高校は人権教育に積極的に取り組んでいる」の保護者の肯定的回答を令和５年度に90％以上にする（Ｈ30 82％、Ｒ１ 87％、Ｒ２ 86％）。  （２）コロナ併存社会、コロナ後の社会を生き抜くために、生徒の高校生活を充実させるとともに、生徒の社会での役割・使命を意識させ、希望の進路実現を図る。  ア　非認知能力を育む部活動の活発さを持続しつつ、学校行事、生徒会行事については、コロナ併存社会、コロナ後の社会で可能なものに見直しをしていく。  ※　体育祭や文化祭、修学旅行等について、コロナ併存社会、コロナ後の社会で可能なものになるよう必要な見直しや修正、変更を検討、実施する。  　　※ 「部活動は活発である」への生徒の肯定的回答を令和５年度まで90％以上で維持する（Ｈ29 94％、Ｈ30 94％、Ｒ１ 94％、Ｒ２ 93％）。  ※ 「部活動と学習の両立ができている」の生徒肯定回答を令和５年度には75％以上をめざす（Ｈ29 64％、Ｈ30 62％、Ｒ１ 69％、Ｒ２ 73％）。  イ　生徒に、コロナ併存社会、コロナ後の社会で、大学進学等のその先20年後を見越したキャリア形成や進路について、分かりやすく意識させる機会を持つ。  ※ コロナ併存社会で可能な、進路講演会やイベントを行うとともに、国公立大学や同志社大学出身の外部講師による講演等の計画、実施を模索する。  　　※ 「進路に関する指導や講習、説明会はわかりやすい」の肯定回答を令和５年度85％にする(Ｈ29 77％、Ｈ30 81％、Ｒ１ 78％、Ｒ２ 80％)。  ※ 「将来の進路や生き方について考える機会がある」の生徒の肯定回答を85％以上で維持する（Ｈ29 80％、Ｈ30 85％、Ｒ１ 86％、Ｒ２ 89％）。  ウ　「総合的な探究の時間」を充実させ、学力の３要素（①基礎的知識・技能、②思考力・判断力・表現力等の能力、③主体的に学習に取り組む態度）を養う。  ※学力の３要素、とりわけ思考力・判断力・表現力等の能力や、主体的に学習に取り組む態度を養うために、「総合的な探究の時間」を充実させる。  　　　エ　生徒が、入学から卒業まで全ての教科をしっかり学び、学力をつけて希望の進路を実現させるための進路指導体制の充実を図る。  　　※ 進路実現のために、高校３年間で考える力を養い大学入学共通テスト形式にも慣れるとともに、定期的に全国比較での学習の定着度や到達度を測る。  　　※ 令和５年度までに大学入学共通テストの出願者を卒業見込み者の75％以上（Ｈ29年度69％、Ｈ30年度76％、Ｒ１年度77％、Ｒ２年度70％）にするとともに、そのうち５教科型の出願者を50％以上（Ｈ29年度35％、Ｈ30年度41％、Ｒ１年度52％、Ｒ２年度32％）にすることをめざす。  ※ 令和５年度までに、国公立大学の現役受験者数を卒業見込み者数の30％以上（Ｈ29年度16％（56名/358名）、Ｈ30年度20％（78名/395名）、Ｒ１年度18％（63名/354名）、Ｒ２年度12％（43名/353名））にして、現役合格者数を卒業見込み者数の10％以上（Ｈ29年度６％（23名/358名）、Ｈ30年度５％（19名/395名）、Ｒ１年度４％（13名/354名）、Ｒ２年度２％（８名/353名））をめざす。  ※ 令和５年度までに、国公立大学と生徒の人気の高い関西難関私立４大学、関西人気私立４大学、関西人気３女子大学への現役進学者合計が卒業見込み者数の50％以上になるようにする。（Ｈ30年度48％（188名/395名）、Ｒ１年度49％（175名/354名）、Ｒ２年度60％（211名/353名））  ４．新型コロナウイルス併存下における教職員研修での教職員の資質の向上と、「働き方改革」の推進による教職員の長時間勤務の縮減  （１）新型コロナウイルス併存下において、教職員が、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導や生徒相談に充分に応えられる資質を養成する。  ア　新型コロナウイルス併存下で可能な教職員研修を行い、教職員がカウンセリングマインドを取り入れた生徒指導や生徒相談に応えられる資質を養成する。  　　※ 「牧野高校では、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」の教員肯定率80％をめざす（Ｈ30 69％、Ｒ１ 67％、Ｒ２ 72％）。  　　※ 「牧野高校には悩みを相談できる場(人や部屋)がある」への生徒の肯定的回答80％以上をめざす（Ｈ30年度80％、Ｒ１年度76％、Ｒ２年度78％）。  　（２）「働き方改革」の推進による教職員の長時間勤務の縮減  　　ア　「働き方改革」や健康管理の観点から、校内行事や分掌業務、会議時間、部活指導時間等の見直しを行い、教職員の長時間勤務を縮減する。 |

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

|  |  |
| --- | --- |
| 学校教育自己診断の結果と分析［　　　　　　　実施分］ | 学校運営協議会からの意見 |
|  |  |

３　本年度の取組内容及び自己評価

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 中期的  目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標【Ｒ２年度値】 | 自己評価 |
| １．新型コロナウイルス併存下での「確かな学力」の育成と授業改善 | （１）「確かな学力」の育成と授業改善  ア　『授業力改善委員会』による持続的な授業改善の推進  イ　ＩＣＴを活用した授業推進  ウ　生徒への授業の予習、復習の習慣づけ指導  エ　生徒の進路希望が叶う新カリキュラムの準備 | （１）新型コロナウイルス併存下で、新学習指導要領の実施や、高大接続システム改革等の先行きを見据えて、「確かな学力」の育成とそのための授業改善を進める。  ア　『授業力改善委員会』で持続的な授業改善を推進する。  イ　『主体的・対話的で深い学び』実現をめざし、ＩＣＴ機器やネットワーク環境を一層充実させ、ＩＣＴを活用した授業等の実施機会を拡大・推進する。  ウ　入学時の学力を卒業まで維持、発展・向上すべく、生徒に、授業の予習、復習を行うよう習慣づけを指導する。  エ　新学習指導要領を踏まえ、生徒の進路希望が叶う新たなカリキュラムを準備し、令和4年度から学年進行で実施できるようにする。 | ア・「牧野高校の授業はわかりやすい」への生徒の肯定的回答を79％以上にする【78％】。  イ・ＩＣＴ活用する授業を実施する教員と、生徒の実感を何れも93％以上にする　【各93％、91％】。  ウ・生徒の「授業の予習、復習は『できている』、『まずできている』」を54％以上に【53％】、『できていない』」を７％以下にする【８％】。  エ･新学習指導要領対応の新カリキュラムを準備完了する。 | 。 |
| ２．ＩＣＴ活用授業の推進とＧＩＧＡスクール構想対応 | （１）コロナ感染者等の学習補完とＧＩＧＡスクール推進  ア　コロナ感染者等学習補完  イ　ＧＩＧＡスクール構想推進 | （１）ＩＣＴ機能活用で学校休業時や新型コロナウイルス感染者等の学習補完を図るとともに、ＧＩＧＡスクール構想への対応を推進する。  ア　ＩＣＴ機能を活用して学校休業時や新型コロナウイルス感染者等の学習補完を充実する。  イ　１人１台端末の導入に対応し、校内のハード（電子黒板との連携）、ソフト（教員研修）両面でのＩＣＴ活用推進を図る。 | ア・『ＩＣＴ、ＧＩＧＡスクール対応推進委員会』を発足させ、学校休業時や新型コロナウイルス感染者等の学習補完を実施可能にする。  イ・１人１台端末導入に対応、電子黒板と連携する教員研修を２回以上実施する。 |  |
| ３．コロナ併存社会、コロナ後の社会を生き抜く、生徒の豊かでたくましい人間性を育成するための教育機会の拡充と希望の進路の実現 | （１）多様性、共生の意識醸成  ア　コロナ偏見を許さないとともに、生徒、教職員、保護者の人権意識醸成の機会を作っていく  （２）生徒の高校生活の充実と希望進路の実現  ア　部活の活発さを持続しつつコロナ下での行事等見直し  イ　進路について生徒に意識させ、考えさせる機会の充実  ウ　「総合的な探究の時間」の充実、学力の３要素の養成  エ　入学から卒業まで全教科を学び学力をつけて、生徒の希望の進路実現させるための進路指導体制の充実 | （１）コロナ偏見を許さず、人種や国、性の違い、障がいの有無等に拘りなく多様性を認め合い共生するための、生徒、教職員等の人権意識を醸成する。  ア　コロナ偏見を許さないとともに、生徒、教職員、保護者に対して、多様性を認め合い共生するための、人権教育、人権意識醸成の機会を作っていく。  （２）コロナ併存社会、コロナ後の社会を生き抜くために、生徒の高校生活を充実させるとともに、生徒の社会での役割・使命を意識させ、希望の進路実現を図る。  ア　非認知能力を育む部活動の活発さを持続しつつ、学校行事、生徒会行事については、コロナ併存社会、コロナ後の社会で可能なものに見直をしていく。  イ　コロナ併存社会、コロナ後の社会で、大学進学等のその先20年後を見越したキャリア形成や進路について、分かりやすく意識させる機会を持つ。  ウ　「総合的な探究の時間」を充実させ、学力の３要素（①基礎的知識・技能、②思考力・判断力・表現力等の能力、③主体的に学習に取り組む態度）を養う。  エ　入学から卒業まで全ての教科をしっかり学び、学力をつけて、生徒の希望の進路を実現させるための進路指導体制の充実を図る。 | （１）ア・「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の生徒の肯定的回答を88％以上にする【87％】。  ・「牧野高校は人権教育に積極的に取り組んでいる」の保護者の肯定的回答を87％以上にする【86％】。  （２）ア・行事等の見直し実施。  ・「部活動は活発である」生徒肯定回答90％以上を維持する【93％】。  ・「部活動と学習の両立ができている」への生徒の肯定的回答を74％以上をめざす【73％】。  イ・進路講演会、イベント実施  ・「進路に関する指導や講習、説明会はわかりやすい」の肯定回答を81％以上にする【80％】。  　・「将来の進路や生き方について考える機会がある」の肯定回答90％以上にする【89％】。  ウ・「総合的な探究の時間」を多様な形で充実させる。  エ・定期的に全国比較での学習の定着度や到達度を測る。  ・大学入学共通テストの出願者を卒業見込み者の75％以上【70％】に、そのうち５教科型の出願者を50％以上【32％】にする。  ・国公立大学の現役受験者数を卒業見込み者数の20％以上【12％】、そのうち現役合格者数を卒業見込み者数の５％以上【２％】にする。  ・国公立大学と関西難関私立４大学、関西人気私立４大学、関西人気３女子大学への現役進学者が卒業者数の50％以上になるようにする。【60％】 |  |
| ４．新型コロナウイルス併存下における教職員研修での教職員の資質の向上と、「働き方改革」の推進による教職員の長時間勤務の縮減 | （１）教職員の資質向上  ア　相談能力養成のための教職員研修充実  （２）「働き方改革」の推進による教職員の長時間勤務の縮減  ア　「働き方改革」や健康管理の観点から、教職員の長時間勤務を縮減する。 | （１）新型コロナウイルス併存下において、教職員が、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導や生徒相談に充分に応えられる資質を養成する。  ア・新型コロナウイルス併存下で可能な教職員研修を行い、教職員が、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導や生徒相談に応えられる資質を養成する  （２）「働き方改革」の推進による教職員の長時間勤務の縮減  ア　「働き方改革」や健康管理の観点から、校内行事や分掌業務、会議時間、部活指導時間等の見直しを行い、教職員の長時間勤務を縮減する。  ・一昨年度実施した職員会議のデータベース化、ペーパーレス化を他の会議等にも応用し、会議時間縮減や、新たな部活動実施指針に基づく部活動時間の圧縮、ＩＣＴ活用による教材の共有化・効率化で、一層の超過勤務削減を進める。  ・校内行事を見直し、縮小、廃止等を検討する。  ・新たな実行性ある働き方改革の施策を検討、実施することで、長時間勤務縮減を図る。 | （１）教職員研修の充実  ア・「牧野高校では、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」の教員肯定率80％をめざす【72％】。  ・「牧野高校には悩みを相談できる場(人や部屋)がある」への生徒の肯定的回答79％以上をめざす【78％】。  （２）教職員の長時間勤務縮減  ア・会議のデータベース化、ペーパーレス化徹底で会議時間を縮減するとともに、新たな部活動実施指針に基づき部活動時間を圧縮、また校内行事を見直して、「働き方改革」を具体的に進め、教職員一人あたりの超過勤務時間数で、前年度比３％、Ｈ29年度比30％の削減をめざす。【Ｈ29：37時間36分、Ｒ２：26時間35分】 |  |